健康友の会みみはらは、地域の皆さんに支えられて 2024年11月17日 40周年を迎えます

「友の会の40年を振り返り、未来を展望する」(仮)〈第８回〉

「耳原友の会」から「健康友の会みみはら」へ
「応援団（サポーター）」から「主体的な担い手（パートナー）」に

1984年11月17日に発足した「耳原友の会」は、当初は同仁会の各事業所に協力する、応援する活動が中心の組織でした。しかし、全国の経験に学び、住民の医療や健康に関する要求を中心に活動をすすめ、青空健康チェックや健康診断、相談活動など徐々に推進させてきました。1997年の同仁会の前倒産、2000年のセラチア院内感染が契機となり、友の会が同仁会の医療・介護活動だけでなく、経営や運営にも主体的に参加すること、地域に深く根差した支部・班を軸とした活動を推進していくことが方針化されました。2004年には、耳原の応援団ではなく、地域の健康を守る主体的な担い手になるとの位置づけで、名称を「健康友の会みみはら」と変更することを第17回総会で確認しました。11月には、20周年記念フェスティバルを開催しました。

第17回総会で名称変更
（とも2004年8月号）

20周年記念
フェスティバルチラシ

「耳原友の会」の発足

地域の人々とともに、医療や相談活動、医療制度改善や公害問題などにとりくんできました。こうした歴史と経験のなか、1984年に「耳原友の会」が発足しました。

耳原友の会は、当初は同仁会の各事業所に協力する、応援するという活動が中心でした。しかし全国の経験にも学び、住民の医療や健康に関する要求を中心に活動をすすめ、青空健康チェックや健康診断、相談活動を徐々に推進させてきました。

耳原友の会設立総会

第1回地域健康まつり

「健康友の会みみはら」として

2004年に、耳原の応援団ではなく、地域の健康を守る主体的な担い手になるとの位置づけで、名称を「健康友の会みみはら」と変更しました。

2010年には耳原実費診療所創立60周年を迎え、8千名が参加した健康文化まつりなどにとりくみました。

2016年7月末、会員数は37405世帯、24支部、84班となり、地域に根ざした友の会活動をすすめています。活動の活性化のために、たまり場の確保にもとりくみ、2014年11月に30周年を迎えました。

健康ウオーキング

強化月間での仲間増やし

友の会ノートより、耳原友の会の発足（左）、健康友の会みみはらとして（右）

友の会の活動を説明した『友の会ノート』

介護の現場から ㉚

ヘルパーステーション
ともうず老松
山下　佐和

訪問介護は人生の一部
利用者に寄り添えるサービスに

常に自分のサポート次第で、利用者の方の生活の質が変わる可能性があるのが「訪問介護」の仕事です。利用者の不安や悩みを聞き、在宅での最適なケアに繋げる事が出来る、介護職では一番身近な存在だと思っています。

訪問介護は1対1でのサービスなので、利用者の些細な変化に気付く事が多くあり、その変化を見落とすと、怪我や病状の悪化に繋がる事もあるため、ヘルパーは洞察力を高めています。

ヘルパーを拒否される利用者も居られます。ヘルパーの顔を見るなり、「帰れ！」と言われることもあります。〝何故、ヘルパー拒否をされるのか〟を、事務所内で話し合う事もありました。病院やデイサービスにも行かず、難聴もあるその利用者は、人と関わらないことで、ご自分を守ろうとされていたのだと思います。最初は身体的な介護はさせて貰えませんでしたが、回数を重ね、ゆっくり利用者の生活に溶け込んでいきました。ともうずのピンクのユニフォームを見ると、「おう！ピンクか。ご苦労さん」と言ってくれ、排泄介助が出来るまでになりました。退室時には、「また来てや」と笑顔で送り出してくれるほどの信頼関係が築けました。

生活援助で調理をする利用者の所では、料理本と材料を準備され、「今日も美味しいおかず作ってや～」と、ヘルパーの訪問を楽しみにされている利用者も居られます。時には辛い胸の内を伺うこともありますし、私の愚痴を聞いて貰う事もあります。

私にとって訪問介護とは、人生の一部です。これからも、利用者に寄り添えるサービスに努めたいと思います。

「荒野に希望の灯をともす」視聴会

7月21日
26人参加

アフガニスタン・パキスタンで35年にわたり、病や干ばつに苦しむ人々の支援を続けた医師・中村哲さんの活動を追ったドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともす」の視聴会を同仁会本部会議室で開催しました。

会議室にはペシャワール会提供のパネルを展示しました。

「中村哲氏の信念と底流の平和の思いが伝わった」「多くの人に観てもらいたい映画」「上映会をやりたい」との感想が寄せられました。

ペシャワール会への支援と共に、上映会を拡げていきたいと思います。

（社保平和委員会）